

英語から見た 日本語の主題と焦点

大澤 舞
(獨協大学)

日本語文法学会2024年度
第2回オンラインイベント
ワークショップ

日本語の主題と焦点
一言語対照の視点からー

2025年3月23日(日)

1. 発表の目的

- ① 英語の主題・焦点の表示手段を整理する
- ② 英語における位置的・音声的な主題・焦点表示手段の相関から一般化を導く
- ③ 英語の一般化から見た日本語の主題・焦点手段の相関と、今後の日本語の主題・焦点研究の深まりを考えてみる

2. 日本語の主題と焦点の表示手段の表裏

「主題」表示のための手段: 助詞「は」を使う

必須

形態的手段

「焦点」表示のための手段: 使う必要はない

必須ではない

「現代日本語の書きことばは、主題表示機能が非常に発達している言語。焦点表示機能は非常に弱い。」

(野田 2025: 本ワークショップ発表スライド 4)

3. 英語の主題と焦点の表示手段の表裏

「主題」表示のための手段：主語位置？

- (1) 意味上は「～について」というのはたらしきをするとなると、最も普通の主題は文の主語である (福地 1985:51)
- (2) 英語話者が、文脈や韻律的な手がかりなく、標準的なSVO文を単独で解釈すると、topic-comment構造の文として理解することがほとんどである。

(参照: Lambrecht 1994:132)

3. 英語の主題と焦点の表示手段の表裏

「主題」表示のための手段：主語位置？

(3) a. What did the children do next?

b. The children went to school.

こどもたち {は／*が} 学校へ行ったよ。

3. 英語の主題と焦点の表示手段の表裏

「主題」表示のための手段：主語位置？

音声は必須ではない

(4) a. The children went to school.

b. topic-comment 構造は、主題となる名詞（ここでは children）が低く（弱く）発音されることで表される。

ただし、低く（弱く）発音されることは主題を示すための必要条件ではない。

(参照: Lambrecht 1994:121)

3. 英語の主語と焦点の表示手段の表裏

「主語」表示のための手段：主語位置？

本来主語としては機能しない要素（範疇）

→ 主語位置に「押し込む」ことで、主題になる

【場所句主語構文】

(5) Under the mat isn't a very sensible place to leave
the key. (Huddleston and Pullum 2002:647)

マットの下は、鍵を置いておくにはあまり賢明な場所ではない。

3. 英語の主語と焦点の表示手段の表裏

「主語」表示のための手段：主語位置？

本来主語としては機能しない要素（範疇）

→ 主語位置に「押し込む」ことで、主語になる

【just because主語構文】

(6) a. (Just) because John is rich doesn't mean that he is happy. (Hirose 1991:19)

b. Just because John is rich, it doesn't mean that he is happy. (Hirose 1991:25)

Johnが金持ちだからといって、それは彼が幸せであることを意味しない。

3. 英語の主題と焦点の表示手段の表裏

「主題」表示のための手段：主語位置？

不定名詞句主語も主題になる

- (7) a. My parents divorced when I was in the ninth grade.
A fourteen-year-old girl couldn't understand what they were doing at that time.
- 14歳の女の子は、その時彼らが何をしていたのか分からなかった。
- b. As a fourteen-year-old girl, I couldn't understand what they were doing at that time.

(Nishida 2002:279)

3. 英語の主語と焦点の表示手段の表裏

「主語」表示のための手段: 主語位置は必須ではない

しかし、主語が常に主題を表すわけではない

(8) John opened the parcel.

ジョン{は／が} その小包を開けた。

(9) A: What happened?

B: A dog was run over. [無題文]

3. 英語の主題と焦点の表示手段の表裏

「焦点」表示のための手段：文末位置？

the principle of end-focus (文末焦点の原則)

(10) 文が伝える内容の情報は、情報価値が低いものから高いものへと並べられるのが一般的である。

(参照: Quirk et al. 1985:1357)

(11) a. She will decide next week.

b. 情報価値の程度: she < will decide < next week

3. 英語の主題と焦点の表示手段の表裏

「焦点」表示のための手段：文末位置？

the principle of end-focus (文末焦点の原則)

- (12) 英語の基本語順はSVOであり、目的語Oが、通例、文の焦点として解釈される。(中略)話し手は、基本語順では焦点が文末に生じない場合、その要素にストレスを置くか、あるいはその要素を後置して、構文法的に焦点要素をマークすることができる。
(高見 1997:12)

3. 英語の主題と焦点の表示手段の表裏

「焦点」表示のための手段: 文末位置は必須ではない

焦点要素は文末とは限らない

- (13) John painted the *SHED* yesterday. [無標の文強勢]
- (14) a. Who painted the shed yesterday?
b. *JOHN* painted the shed yesterday. [Johnが焦点]
- (15) a. What did John do the shed yesterday?
b. John *PAINTED* the shed yesterday. [paintedが焦点]

3. 英語の主題と焦点の表示手段の表裏

「焦点」表示のための手段: **必須** **音声的手段**

焦点要素は強く・高く発音される

(16) 節(または節の一部)の焦点は、最も強い、いわゆる「核強勢」を担う
(参照: Huddleston and Pullum 2002:1370)

- (17) a. *MARY* wrote the story.
 b. It was *MARY* who wrote the story.
 c. It's *JILL'S* husband they've charged.
 (Huddleston and Pullum 2002:1424-5)

4. 日英語の主題と焦点の表示手段の表裏

	主題表示	焦点表示
日本語	必須：形態的手段	必須ではない
英語	必須ではない	必須：音声的手段

英語は、焦点機能が非常に発達している言語であり、主題表示機能は非常に弱い・・・と言っているのだろうか？

見てきたように主題の主語位置・焦点の文末位置は必須ではないが、英語にとってのデフォルトであり、特に主題の主語位置はかなり強めのデフォルトである。

5. 英語の主語と焦点の表示手段の相関

主語と焦点の表示手段：形態・位置・音声・特殊構文
英語における手段：

	主語表示	焦点表示
形態	なし	なし
位置	デフォルト（主語）	デフォルト（文末）
音声	なくてもいい	必須
特殊構文	話題化・左方転移	it分裂文

本発表では、特殊構文については割愛

5. 英語の主語と焦点の表示手段の相関

	主題表示	焦点表示
形態	なし	なし
位置	デフォルト(主語)	デフォルト(文末)
音声	なくてもいい	必須
特殊構文	話題化・左方転移	it分裂文

【英語の主語と焦点の表示手段の相関に関する一般化】

英語において、「焦点は必ず音声的に表示する」という手段があるため、位置的手段は、覆すことのできるデフォルトに留まる(ことができる)。位置的に定めたい場合には専用の特殊構文を用いる。これは音声で覆されることはない。

6. 日本語の主題と焦点の表示手段の相関

日本語における焦点位置のデフォルト

- (18) 日本語は、通例、動詞の位置が文末に固定されているので、動詞が旧情報を表す場合は、その直前の位置が文中の最も新しい情報(=焦点)を表す要素のための予約席となる。

(久野 1978:60)

- (19) A: 太郎は花子とどこへ行ったの？

B₁: 彼は花子と京都へ行った。 [焦点: 京都]

B₂:* 彼は花子と行った、京都へ。

(高見 1997:9)

6. 日本語の主題と焦点の表示手段の相関

主題と焦点の表示手段：形態・位置・音声・特殊構文
日本語における手段（暫定的）：

	主題表示	焦点表示
形態	必須	必須ではない
位置	？	デフォルト（動詞の前）
音声	なし？	あってもいい
特殊構文	擬似分裂文？	倒置構文？

本発表では、？の箇所については割愛

7. 主題と焦点の表示手段の相関から

日英語対照から得られる今後の深まり(の可能性):

■日本語においても、以下のようにいうことができるかもしれない

「主題は(必ず)形態的に表示する」という手段があるため、位置的手段はデフォルトに留まる。位置的に定めたい場合には、専用の特殊構文を用いる。これは形態で覆されることはない。

■他の言語においても、以下のことが考えられるかもしれない

形態的・音声的に必須の手段を持たない場合、位置的手段は必須になり得るのかどうか。必須でない場合は、専用の特殊構文(の使用)が発達しているといえるかどうか。

参考文献

福地肇 (1985) 『談話の構造』, 大修館書店.

Hirose, Yukio (1991) “On a Certain Nominal Use of *Because*-Clauses: Just Because *Because*-Clauses Can Substitute for *That*-Clauses Does Not Mean That This Is Always Possible,” *English Linguistics* 8, 16–33.

Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*, Cambridge University Press.

久野暲 (1978) 『談話の文法』, 大衆館書店.

Lambrecht, Knud (1994) *Information Structure and Sentence Form*, Cambridge University Press.

Nishida, Koichi (2002) “On ‘Reflexive Indefinites’ in English and Japanese,” *English Linguistics* 19: 2, 266–290.

Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech, and Jan Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*, Longman UK.

高見健一 (1997) 『機能的統語論』, くろしお出版.